

# 『正信偈』に親しむ ⑦

## 【本文・読み方】

せつしゅしんこうじょうしやうご  
撰取心光常照護

【現代語訳】  
仏の心はすべてをおさめ  
とつてすてない光であり  
常に私たちを照らし、  
まもってくださいませ。

いのうすいはむみょうあん  
己能雖破無明闇

すでによく無明の闇を破すと  
いえども、

すでに迷いの闇は破られて  
いるのですが、

とんしんぞうしうんむ  
貪愛瞋憎之雲霧

貪愛・瞋憎の雲霧

むさぼり とらわれ いかり  
にくしみの雲や霧が、

じょうふしんじつしんじんてん  
常覆真實信心天

常に真實信心の天に覆えり。

常に仏の眞実のこころの  
空をおおってしまいます。

ひによにつこうふうんむ  
譬如日光覆雲霧

たとえば、日光の雲霧に覆わる  
れども、

それでもたとえば日光が  
雲や霧におおわれても、

うんむしげみまうむあん  
雲霧之下明無闇

霧の下、明らかにして闇き  
ことなきがごとし。

その下が明るくて闇になら  
ないように、仏の眞実の  
こころは いつも澄みきつ  
ているのです。

## 【解説】

仏のはたらきは、おのおのを平等に照らし  
だす光です。その光に照らされるとき、私た

ちの愚かさもそのまま明らかに知らされるこ  
とになるのです。

だれもが自分のことはよくわかっていると  
思いこんでいますが、仏の教えは、私たちの  
あり方が他との比較、損得、善悪などにとら  
われ、真に大切なことを忘れてしていると教える  
のです。仏の智慧によつてはじめて、無明の  
闇のなかにいた私が見え、欲やいかりがなく  
ならない凡夫であったと目覚めるのです。

阿弥陀仏は、たちやくやく称えやすい名号、  
「南無阿弥陀仏」を与えてくださったのです。  
そして、たとえ阿弥陀如来の教えを疑う罪深  
いものでさえ排除することなく、残らず浄土  
に迎えるとお約束されたのです。

このように、私たちが仏のお約束を信じて  
「南無阿弥陀仏」と称えるならば、かならず  
阿弥陀如来のはたらきが現れて、撰取不捨の  
お心によつて私たちを阿弥陀仏の浄土の世界  
に迎えとってくださいませことは疑う余地がない  
ことなのです。  
(次号に続く)

## 親の願いと仏の願

私ごとですが、先日長女が誕生しました。  
はじめて子どもに呼びかけた言葉は、「はじめ

まして、お父さんですよ！」でした。新しい  
生命と出会った感動で涙ぐんでいる自分がい  
ました。

わが子に対して、「お父(母)さんですよ」  
と呼びかける方が多いようです。「父(母)で  
す」とは言いませんね。子どもがそのまま「お  
父(母)さん」と言えるようにとの願いから  
でしょうか。

思えば、私たちが称える「南無阿弥陀仏」  
も、阿弥陀さまの名(お名号)を呼んでいる  
のですね。仏さまの愛情(慈悲)は、いつも  
私たちに向けられているのに、なかなか気づ  
かない。そこで、仏さま(親)は私たち(子)  
に気づきやすく、称えやすいようにあたえて  
くださったのがお念仏なのです。

仏さまの名(名号)を呼ぶことは、仏さま  
(親)が、私たち(子)にかけられた願いを  
受けとりましたというお返事です。仏から私  
たちへ向けられた本当の願い(本願)を信じ、  
お念仏をもうしたいものです。

親鸞聖人は、「南無というは帰命なり」と教  
えられます。この私が阿弥陀仏のはたらきに  
はじめて気づいて頭が下がったということが、  
南無、帰命です。『正信偈』の「帰命無量寿如  
来」「南無不可思議光」は、この心こそが大切  
であるといわれているのです。

\*小紙『正信偈』に親しむをこ一読ください。  
ホームページにバックナンバーがあります。(㊁)